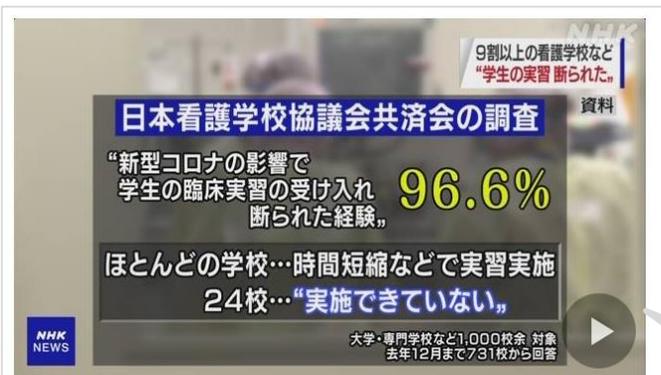


■ NHK



●NHK NEWS WEB (2021年2月20日)
<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20210220/k10012877831000.html>

動画

- ・2月20日（土）のお昼ニュースに放送
- ・2月22日のシブ5時に放送予定

“学生の実習 断られた経験” 9割以上の看護学校など

2021年2月20日 12時05分 新型コロナウイルス

新型コロナウイルスの影響について全国の看護学校など対象にアンケート調査を行ったところ、9割以上の学校で、医療機関などから学生の臨床実習の受け入れを断られた経験があることが分かりました。

この調査は、日本看護学校協議会共済会が、看護師や准看護師を育成する大学や専門学校など1000校余りを対象にアンケート調査を行い、去年12月までに731校から回答を得ました。

それによりますと、去年以降、新型コロナウイルスの影響で医療機関から学生の臨床実習の受け入れを断られたことがあると答えた学校は96.6%に上ったということです。

ほとんどの学校は時間を短くするなどして、最終的に実習を行ったということですが、24校が実施できていないと回答しました。

また、実習を行うことができた学校でも、患者に対応する時間を例年通り確保できたと答えたのは11.4%にとどまりました。

調査を行った団体によりますと、新型コロナウイルスにより、多くの医療機関で態勢がひっ迫していたことが背景にあるということで団体では、学生が実際の医療現場に出る際には職場などでの教育の補強が必要だとしています。



調査の分析を担当した奥田三奈さんは「学生から実習ができず不安だという声を聞いている。実習先を確保するためには病院のひっ迫状況をコントロールすることが必要だ」と話しています。

●東京新聞 (2021.2.17付朝刊)

看護養成校の96% 病院実習断られる

コロナが影響

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、看護職養成学校の96・6%が、学生の病院実習を断られた経験があることが16日、日本看護学校協議会共済会の調査で分かった。実習ができた場合でも、学生が患者らと接した時間を例年通り確保できたとした養成校は11・4%にとどまった。

多くの病院がクラスター(感染者集団)発生への警戒を強めていることが背景にある。同共済会は学生が安心して実習に受け入れてもらえるよう、学生が早期にワクチン接種できる態勢整備を求めている。調査は

●日本経済新聞 (2021.2.17付夕刊)

看護学生の実習 96%が拒否経験

養成学校、コロナで

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、看護職養成学校の96・6%が、学生の病院実習を断られた経験があることが17日

までに、日本看護学校協議会共済会の調査で分かった。実習ができた場合でも、学生が患者らと接した時間を例年通り確保できたとした養成校は11・4%にとどまった。多くの病院がクラスター(感染者集団)発生への警戒を強めていることが背景にある。同共済会は学生が安心して実習を受け入れてもらえるよう、学生が早期にワクチン接種できる態勢整備を求めている。調査は昨年11、12月、

昨年十一月十二月、看護師や准看護師を養成する専門学校や大学など全国千十七校を対象に実施。七百三十一校から回答を得た。七百三十一校のうち、病院から実習の受け入れ不可の連絡を受けた経験がある

と答えたのは七百六校。最終的に六百九十六校は実習を行えたが、多くが病院での滞在時間などが例年に比べて大幅に減少。実習できた学校の57・6%が、例年より学生の知識・技術習得の成果が減ったとした。

学生の実習拒否経験 96%

看護学校、クラスター警戒

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、看護職養成学校の96・6%が、学生の病院実習を断られた経験があることが16日、日本看護学校協議会共済会の調査で分かった。実習ができた場合でも、学生が患者らと接した時間を例年通り確保できたとした養成校は11・4%にとどまった。

多くの病院がクラスター(感染者集団)発生への警戒を強めていることが背景にある。同共済会は学生が安心して実習を受け入れてもらえるよう、学生が早期にワクチン接種できる態勢整備を求めている。調査は昨年11、12月、看護師や准看護師を養成する専門学校や大学など全国1017校を対象に実施。731校から回答を得た。731校のうち、病院から実習の受け入れ不可の連絡を受けた経験があると答えたのは706校。最終的に696校は実習を行えたが、多くが病院での滞在時間などが例年に比べて大幅に減少。実習できた学校の57・6%が、例年より学生の知識・技術習得の成果が減ったとした。

●四国新聞 (2021.2.17付)

●京都新聞 (2021.2.17付朝刊)

看護学生実習 拒否経験6% コロナ影響

新型コロナウイルス感染症の影響で、看護職養成学校の96・6%が、学生の病院実習を断られた経験があることが16日、日本看護学校協議会共済会の調査で分かった。実習ができた場合でも、学生が患者らと接した時間を例年通り確保できなかったとした養成校は11・4%にとどまった。

多くの病院がクラスター(感染者集団)発生への警戒を強めていることが背景にある。同共済会は学生が安心して実習を受け入れてもらえるよう、学生が早期にワクチン接種できる態勢整備を求めている。

調査は昨年11～12月、看護師や准看護師を養成する専門学校や大学など全国1017校を対象に実施。731校から回答を得た。731校のうち、病院から実習の受け入れ不可の連

絡を受けた経験があると答えたのは706校。最終的に696校は実習を行えたが、多くが病院での滞在時間が例年より比べて大幅に減少した。

●佐賀新聞 (2021.2.17付)

看護学生病院実習 「断られた」96% コロナ影響

新型コロナウイルス感染症の影響で、看護職養成学校の96・6%が、学生の病院実習を断られた経験があることが16日、日本看護学校協議会共済会の調査で分かった。実習ができた場合でも、学生が患者らと接した時間を例年通り確保できなかったとした養成校は11・4%にとどまった。

多くの病院がクラスター(感染者集団)発生への警戒を強めていることが背景にある。同共済会は学生が安心して実習を受け入れてもらえるよう、学生が早期にワクチン接種できる態勢整備を求めている。

●熊本日日新聞 (2021.2.17付)

看護学校の96%が 病院実習拒否経験 コロナ影響

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、看護職養成学校の96・6%が、学生の病院実習を断られた経験があることが16日、日本看護学校協議会共済会の調査で分かった。実習ができた場合でも、学生が患者らと接した時間を例年通り確保できなかったとした養成校は11・4%にとどまった。

多くの病院がクラスター(感染者集団)発生への警戒を強めていることが背景にある。同共済会は学生が安心して実習を受け入れてもらえるよう、学生が早期にワクチン接種できる態勢整備を求めている。

調査は昨年11～12月、看護師や准看護師を養成する専門学校や大学など全国1017校を対象に実施。731校から回答を得た。731校のうち、病院から実習の受け入れ不可の連絡を受けた経験があると答えたのは706校。最終的に696校は実習を行えたが、多くが病院での滞在時間などが例年比べて大幅に減少。実習できた学校の57・6%が、例年より学生の知識・技術習得の成果が減ったとした。

●北海道新聞 (2021.2.17付夕刊)

看護学校の96% 実習拒否を経験 コロナ影響

新型コロナウイルス感染症の影響で、看護職養成学校の96・6%が、学生の病院実習を断られた経験があることが16日、日本看護学校協議会共済会の調査で分かった。実習ができた場合でも、学生が患者らと接した時間を例年通り確保できなかったとした養成校は11・4%にとどまった。

多くの病院がクラスター(感染者集団)発生への警戒を強めていることが背景にある。同共済会は学生が安心して実習を受け入れてもらえるよう、学生が早期にワクチン接種できる態勢整備を求めている。

調査は昨年11～12月、看護師や准看護師を養成する専門学校や大学など全国1017校を対象に実施。731校から回答を得た。

o v o 掲載 (株式会社共同通信社が運営する話題の情報サイト)
 調査結果をo v oサイトに掲載 (2月16日配信)
<https://ovo.kyodo.co.jp/news/life/a-1573517>

【新型コロナウイルス】最新ニュース

看護学校の97%「病院実習拒否」経験 学修成果は減少、ワクチン求める声も

2020年2月16日 OVO

看護学校や看護大学などの「看護職養成校」に新型コロナウイルスの影響を被ったところ、96.6%は学生が病院でできる実習（臨床実習）を病院側から拒否した経験があり、57.6%は学修成果が例年と比べて減ったとらえていることが分かった。一般社団法人日本看護学校協議会共済会（東京都中央区、前川満知子会長）が2月16日、調査結果を発表した。協議会は臨床実習の不足を内閣府で開いた「リポート」発表を機に入力するなどの工夫をしているが、本来の看護職である学生・生徒の経験不足を懸念する教員も少なくなく、両者は情報連携技術（ICT）化への助成や、学生へのワクチン接種待機を求めている。

▽3%は臨地実習できず
 実習が運営する病院側側面加入する看護職（看護職、看護職）養成校107校を対象に、昨年11～12月にアンケートを実施。731校から回答があった。

学校種別	校数	割合
専攻学校・専攻学校	451校	61.7%
短期大学	92校	12.6%
大学	125校	17.1%
その他	47校	6.4%
看護学校5年一貫	49校	6.7%
専攻学校兼養成校	40校	5.5%
高等専門学校	9校	1.2%
無回答	1校	0.1%

706校（96.6%）が実習先から学生の「受け入れ不可」の連絡を受けた経験があった。調査では不可の理由を聞いていないが、病院側は感染対策として立ち入り人数を減らす必要がある、学生実習の感染対策も確保できないなど理由があったとみられる。学生1人当たりの実習時間を短くするなどした結果、受け入れ不可の連絡がなかった養成校も含め696校（95.2%）は臨床実習を拒否したが、24校（3.3%）は実習ができていなかった。不可連絡があった706校のうち623校（88.2%）は院内実習を導入した。

▽リモート急増、環境は不十分
 リモート授業は昨年夏まで実施していたのは約半数だったが、半開講では520校（72.2%）が実施するなど急激に導入している。学生がWi-Fiに接続できる場所が校内の80%以上ある養成校は、2019年度からは全体の20.9%だったが、半開講では296校（40.5%）へと増えた。しかし、302校（41.3%）は学生の私的デバイス（ノートパソコン、タブレット、スマホなど）を院内ネットワークに接続することを許可しておらず、十分にICTを活用して学ぶ環境にはなっていないと懸念された。

年度	8割以上～全域	半分～8割未満	半分以下	一部の部屋等	無回答
2019年度	20.9%	9.7%	10.0%	44.8%	14.6%
2020年度	40.5%	34.2%	1.0%	26.5%	9.8%

▽学生使用デバイスの院内ネットワーク接続
 2019年度

接続状況	割合
接続不可	55.5%
学校と学生の共有ネットワークに許可	23.7%
学生専用ネットワークに許可	12.8%
無回答	8.9%

2020年度

接続状況	割合
接続不可	41.3%
学校と学生の共有ネットワークに許可	34.7%
学生専用ネットワークに許可	17.6%
無回答	6.3%

臨床実習を行った696校は、時間数や経験値が減少した実習での学習を代替・補完するためにさまざまな工夫を凝らしており、病院の感染対策は655校（94.2%）、シミュレータ（人形）は490校（70.4%）が活用、実習場のスタックをオンラインでライブ収録した養成校は97校（13.9%）あり、看護教育のICT化に関わっていることが分かった。仮想現実（VR）や拡張現実（AR）を活用した学校は25校（3.6%）と少なかつた。

実習の工夫

工夫の工夫	割合
市販シミュレータを利用	70.4%
市販の模擬実習教材を利用	91.2%
実習指導者の院内収録	35.6%
実習施設教員の院内収録	29.5%
実習施設教員のオンラインライブ収録	13.9%
看護対象（患者等）のオンラインライブ収録	5.7%
教員が作成したXR（VRを含む）を利用	3.6%

▽学生満足度、三分の2は否定的
 臨床実習を行った696校の調査によると、学生が「実習場に滞在した時間」が例年通り確保できたのは66校（9.5%）。「患者と接した時間」確保は79校（11.4%）。「看護技術を実践した回数」確保は90校（12.9%）で、多くの養成校で実習量が減少した。実習場滞在時間や看護技術実践回数が例年の半分以上に確保された養成校は、全体の30%以上に達した。

実習の場での実習経験の減少

項目	2019年度	2020年度
① 臨地滞在時間	9.5%	28.7%
② 看護対象と対面した時間	11.4%	25.4%
③ 看護技術実践回数	12.9%	28.7%
④ 看護場面等を観る回数	11.5%	26.4%
⑤ 多職種協働を学ぶ経験	14.5%	24.7%

その結果、「実習での学生の学習（理解、知識、技術などの習得）成果」が例年と比べて「とても少ない」169校（24.3%）、「やや少ない」232校（33.3%）と、減少を指摘する回答が計401校（57.6%）と過半数を占めた。学生の実習での満足度が上がったかどうかについても、肯定的回答が計457校（65.7%）と三分の二に達した。

実習での学修成果

学修成果	割合
とても大きい	2.6%
やや大きい	3.4%
例年同様	10.5%
やや少ない	33.3%
とても少ない	24.3%
全体傾向不明	17.4%
わからない	5.7%
無回答	2.7%

▽自助に限界、助成や配慮を
 両会によると、実習の場でのリアルな体験・視察・見学の機会を十分に得ることが出来なかった看護学生が前年度に比べて、うまく機能するようならうと、距離を縮める教員も少なくないという。前川会長は「養成校は学生・生徒が自律を持って社会に巣立ってほしい。さまざまな工夫と最大限の努力をしているが、自助だけでは乗り越えられない。ICT化を推進するための助成や、専任教員の増員、臨時実習が十分にできなかった卒業生を病院が研修・配属で配慮するガイドラインが必要。臨床実習に心配なく参加できるよう、医療界を学ぶ学生にワクチンを早期に供給してほしい」と要望している。

【日本看護学校協議会共済会】
 臨床実習実業「Wi-Fi」を備えた看護学生の学習の専攻への看護学校生活の安全対策を目的として、1998年に設立された。その後、看護界以外の医師・福祉系の養成校に学生や、実習指導に当たる教員、看護職にも対象を広げ、種別別実習と実習情報など各種サービスを提供している。会員は約27万人。

■ 転載事例：Yahooニュース（2月16日配信）

<https://news.yahoo.co.jp/articles/23d20ca64c049d48c1e205a2c172f4bf955b265a>

看護学校の97%「病院実習拒否」経験 学修成果は減少、ワクチン求める声も

2/16(火) 15:04 配信 1

OVO
オーヴォ

看護学校や看護大学などの「看護職養成校」に新型コロナウイルスの影響を尋ねたところ、96.6%は学生が病院で患者に接する実習（臨地実習）を病院側から断られた経験があり、57.6%は学修成果が例年に比べ減ったととらえていることが分かった。一般社団法人日本看護学校協議会共済会（東京都中央区、荒川真知子会長）が2月16日、調査結果を発表した。各養成校は臨地実習の不足を校内実習で補ったりリモート授業を導入したりするなどの工夫をしているが、未来の看護師である学生・生徒の経験不足を懸念する教員も少なくなく、同会は情報通信技術（ICT）化への助成や、学生へのワクチン早期供給を求めている。

▽3%は臨地実習できず

同会が運営する補償制度に加入する看護職（看護師、准看護師）養成校1017校を対象に、昨年11～12月にアンケートを実施、731校から回答があった。

706校（96.6%）が実習先から学生の「受け入れ不可」の連絡を受けた経験があった。調査では不可の理由を聞いていないが、病院側は感染予防策として立ち入り人数を減らす必要があり、学生用の感染防護具も確保できないなどの事情があったためとみられる。学生1人当たりの実習時間を短くするなどした結果、受け入れ不可の連絡がなかった養成校も含め696校（95.2%）は臨地実習を実施したが、24校（3.3%）は実習ができていなかった。不可連絡のあった706校のうち623校（88.2%）は校内実習を導入した。

▽リモート急増、環境は不十分

リモート授業は昨年度まで実施しているのは1校だけだったのに対し、今回調査では528校（72.2%）が実施するなど積極的に導入していた。学生がWi-Fiに接続できる場所が校内の80%以上である養成校は、2019年度以前は全体の20.9%だったが、今回調査では296校（40.5%）へと増えた。しかし、302校（41.3%）は学生の私的デバイス（ノートパソコン、タブレット、スマホなど）を学内ネットワークに接続することを許可しておらず、十分にICTを活用して学ぶ環境にあると言いつづかった。

臨地実習を行った696校は、時間数や経験値が減った実習での学修を代替・補充するためにさまざまな工夫をしており、市販の視聴覚教材は635校（91.2%）、シミュレータ（人形）は490校（70.4%）が活用。実習先のスタッフをオンラインでライブ招請した養成校も97校（13.9%）あり、看護教育のICT化に努めていることが分かった。仮想現実（VR）や拡張現実（AR）などを活用した学校は25校（3.6%）と少なかった。

▽学生満足度、3分の2は否定的

臨地実習を行えた696校の回答によると、学生が「実習場に滞在した時間」が例年通り確保できたのは66校（9.5%）、「患者らと接した時間」確保は79校（11.4%）、「看護技術を実施した回数」確保は90校（12.9%）で、多くの養成校で実習経験が減少した。実習場滞在時間や看護技術経験回数が例年の半分以下に激減した養成校は、全体の30%以上に達した。

その結果、「実習での学生の学修（理解、知識・技術などの習得）成果」が例年と比べて「とても少ない」169校（24.3%）、「やや少ない」232校（33.3%）と、減少を指摘する回答が計401校（57.6%）と過半数を占めた。学生の実習での満足度が上がったかどうかについても、否定的回答が計457校（65.7%）と3分の2近かった。

学生や教員に「感染の疑いのある症状（発熱、せきなど）を確認した」養成校は、回答731校のうち449校（61.4%）、「濃厚接触者が出た」養成校は302校（41.3%）、「感染者が出た」養成校は112校（15.3%）あった。注意したいのは、看護学生の15.3%が感染したのではなく、1人でも感染者が出た養成校が全体の15.3%だったということ。この数字について同会は「発生率を単純に他のデータと比較するのではなく、看護学校ではかなり厳密に日々の健康状態のチェックが行われていることを加味して考えるべきだ」としている。また「学生あるいは教員らから実習先の患者やスタッフへの2次感染の発生」が4校（0.5%）あった。

▽自助に限界、助成や配慮を

同会によると、実習の場でのリアルな体験・経験・見学の機会を十分に得ることが出来なかった看護学生が看護師になった際に、うまく機能できるだろうかと、憂慮する教員も少なくないという。

荒川会長は「養成校は学生・生徒が自信を持って社会に巣立っていけるよう、さまざまな工夫と最大限の努力をしているが、自助努力では乗り越えられない。ICT化を推進するための助成や、専任教員の増員、臨時実習が十分にできなかった卒業生を病院が研修・配属で配慮するガイドラインなどが必要。臨地実習に心配なく参加できるように、医療を学ぶ学生にワクチンを早期に供給してほしい」と要望している。

【日本看護学校協議会共済会】

総合補償制度「Will」を通じた看護学生の实習中の事故への補償や学校生活の安全対策を目的として、1998年に設立された。その後、看護系以外の医療・福祉系の養成施設に学ぶ学生や、実習指導に当たる教職員、看護職にも対象を広げ、補償制度と安全対策情報など各種サービスを提供している。会員は約27万人。

o v o 掲載

Willnext magazine20号に掲載された看護学校のルポを掲載（2月16日配信）

<https://ovo.kyodo.co.jp/news/a-1573570>

【新型コロナ】最新ニュース

看護学生、困難乗り越え病院実習 新型コロナの影響、教育現場でも深刻

【新型コロナ】最新ニュース | ライフスタイル | 社会 | © 2021年2月16日 OVO

新型コロナウイルスが看護教育に深刻な影響を与えていることが、日本看護学校協議会共済会が実施した全国調査で明らかになった。講義がオンライン化されたり病院での実習（臨床実習）が一時的困難になったりした中、看護学校の教職員や学生はコロナ禍を何とか乗り越えようと奮闘を続けている。同共済会の会報誌「Willnext Magazine」20号に掲載された看護学校のルポを転載する（取材は2020年10月、株式会社共同通信社ウエルネス情報センター）。

■臨床実習、一時困難に 誇り持ち看護師目指す（岩崎学園横浜実践看護専門学校）



校内の空きスペースでオンライン授業を受ける学生

例年通りなら2020年3月、横浜国際平和会議場（パシフィコ横浜）の大ホールは、グループの専門学校7校を巣立つ学生や家族約3000人で埋まり、合同卒業式が賑わやかに行われるはずだった。しかし、2020年度は新型コロナウイルスの影響で、各校ごとに異なる。横浜実践看護専門学校（横浜市北区）では、卒業生と教職員だけが出席して挙行された。

政府が校務を要請した2月末には授業はほぼ終わっており、副校長の山川美智子さんは「授業への影響はほとんどなかった」と言う。4月の入学式は3回開催が強化され、新入生はスマホやパソコンでホームルームやオリエンテーションに参加した。新学期の授業はオンライン形式に切り替えた。「入学時に学生に1台ずつノートパソコンを貸与しており、自宅のWi-Fi環境を整えるため全員に1万円を支給。3年生は4月半ばから、2年生は5月の連休明けから、普段の時間割通りに授業を始めた」と山川さん。

▽新しい学びの形

オンライン授業について学生にアンケートしたところ「対面の授業より集中力が高まると好評だった。「スライドが見やすい」「友達とおしゃべりができない」「通学時間がいらぬので学習に充てられる」などのほか、社会人の学生からは「子どもの学校が休みなので、家で授業を受けられ助かった」との声が寄せられたという。

思わぬ効果も得られた。普段は教室で手を上げない学生が、チャット機能で「今の所、分かりません」と気軽に質問してくるようになった。リポートが学書からキーボード入力、メール送信になったことで、パソコンを使う頻度が増した。山川さんは以前、卒業生から「患者データの入力がなかなか終わらず、病院を出るのが夜中になる」と聞いたことがある。「多くの病院が電子カルテを導入している現状では、学校が基礎教育とされているITスキル、リテラシーの向上が必須」と考えていたが、それを高める機会になった。



教室でオンライン授業を受ける学生たち

教員の授業手法や書類も変化し「私自身、学生の記憶に残るような紙書を徹底していたが、オンラインで資料をもち回って終わり、とならないよう、反復して学習できる資料作りを念入りにするようになった」（山川さん）。学園としても2017年から、オンライン教育のシステムや授業設計、評価の在り方について研究してきたといひ「対面とオンラインのエッセンス、ノウハウを融合したハイブリッド教育は、新しい学びの形になっていく」（同学園広報）と位置付けていく。

デメリットはある。回になる恐れが少ない奨学金や通学定期券などの手続きをする場合を除き登校を禁止していたため、学生は友人を作る機会が減り、教員とのコミュニケーションも取りにくくなった。アンケートに「友達ができない」「一人で画面を見ながらの授業なので寂しい」と書いてきた学生には、スクールカウンセラーとの面談を勧めるなど、精神面でフォローが欠かできなかった。

緊急事態宣言解除後の対面授業の再開に当たり、1学年80人を40人ずつ2クラスから20人ずつ4クラスに分け、登校は原則として週2日とした。訪問看護や終末療養のグループワークでは、学生に計画を立てさせ、教員が患者役になって実演する様子をビデオに撮ってオンライン授業とするなど、工夫を重ねた。例年なら1年生の9月ごろからやっている演習は、後ろ倒しせざるを得なかった。

さらに困難だったのは、県内の約40病院に依頼して行っている3年生の臨床実習だった。多くの患者を抱え手が回らない、学生がウイルスを持ち込んでも困る。学校側も学生に毎朝の検温と報告を義務付け、感染リスクが増す飲食店でのアルバイトを禁止するなどの措置は取っていたが、7月まで臨床実習はできなかった。その後、受け入れてくれた病院からは、学生が2週間以内に訪れた場所の提出や、数千円かかる抗体検査の費用負担を求められたという。

臨床実習は「看護の理論と実践を結びつけて理解する能力を養う場として重要」（厚生労働省）との位置付けた。同会が6月に出した「臨床実習が困難な場合は、学内でシミュレーション機器を使った演習や学生同士の演技演習を実施するなどして、目標が達成されるように」とする通知を受け、各学校は受け入れ制限や時間短縮に悩みながら、何とか実習時間を確保している。



患者も看病実習をする学生たち

▽就活に影響も

学生の就職活動にも影響を与えた。病院の採用状況はさまざまだが、インターンシップや説明会が減って、オンライン面接や個別対応が増加。大手の公的病院は例年より早く5月に募集を締め切った。「病院や臨床のイメージがつかぬまま、就職先を決めることにならないか」と山川さんは心配する。

また「県内の大病院に久しぶりに実習に行ったら、多くの職員が入れ替わっていた」と明かし、新型コロナウイルスの長期化が看護職の疲弊や不足に拍車をかけることを懸念する。厚生労働省の推計によると、団塊の世代が全員75歳以上になる2025年には、神奈川県では看護職が約3万2000人不足し、充足率は72.6%と全国でも深刻になるとの見通しだ。

ただ、希望の材料はある。学校の見学や入学を希望する高校生が以前より増えた。退学書も出していない。「不安はあるだろうが、コロナの時代に活躍できる仕事を、と誇りを持っているのではないか」。山川さんは、さまざまな困難を乗り越えてコロナに立ち向かうとしている将来の看護職たちに期待を寄せている。

【横浜実践看護専門学校】

学校法人岩崎学園（横浜市）の7校目の専門学校として2014年に開校。3年制で学生定員は240人、常勤教職員は26人。「充実した演習施設、学生の視点に立った面倒臭い教育」が特長。学生の出身地は北海道から沖縄県まで全国に及び、病院併設ではないため、さまざまな進路選択が可能で、卒業生は神奈川県内外の多くの病院で活躍している。



山川美智子さん

1947年、山形県生まれ。東京大医学部付属看護学校、同助産師学校、明星大文学部心理教育学科卒、人間総合科学大人間総合科学研究科修士課程修了。聖大病院胸部外科、産婦人科、サウジアラビア王子大ファジド研究所病院、看護専門学校などを経て、2018年4月から現職。専門は母性看護学。

■ 転載事例 : Yahoo (ジャンル : ライフ / 2月16日)

<https://news.yahoo.co.jp/articles/3c2a5a8f3724677d4b65623ce98cae30347f0a47>

看護学生、困難乗り越え病院実習 新型コロナの影響、教育現場でも深刻

2/16(水) 15:25 配信 3



教室でオンライン授業を受ける学生たち

新型コロナウイルスが看護教育に深刻な影響を与えていることが、日本看護学校協議会共済会が実施した全国調査で明らかになった。講義がオンライン化されたり病院での実習（臨床実習）が一時的に中断したりした中、看護学校の教職員や学生はコロナ禍を何とか乗り越えようと奮闘を続けている。同共済会の会報誌「Willnext Magazine」20号に掲載された看護学校のレポートを転載する（取材は2020年10月、株式会社共同通信社ウエルネス情報センター）。

例年通りなら2020年3月、横浜国際平和会議場（パシフィコ横浜）の大ホールは、グループの専門学校7校を巣立つ学生や家族ら約3000人で埋まり、合同卒業式が晴れやかに行われるはずだった。しかし、2020年度は新型コロナウイルスの影響で、各校ごとに変更。横浜実践看護専門学校（横浜市港北区）では、卒業生と教職員だけが出席して挙行された。

政府が休校を要請した2月末には授業はほぼ終わっており、副校長の山川美喜子さんは「授業への影響はほとんどなかった」と言う。4月の入学式は3密回避が強化され、新入生はスマホやパソコンでホームルームやオリエンテーションに参加した。新学期の授業はオンライン形式に切り替えた。「入学時に学生に1台ずつノートパソコンを貸与しており、自宅のWi-Fi環境を整えるため全員に1万円を支給。3年生は4月半ばから、2年生は5月の連休明けから、普段の時間割通りに授業を始めた」と山川さん。

新しい学びの形

オンライン授業について学生にアンケートしたところ「対面の授業より集中力が高まる」と好評だった。「スライドが見やすい」「友達とおしゃべりがいい」「通学時間がいらなくて学習に充てられる」などのほか、社会人の学生からは「子どもの学校が休みなので、家で授業を受けられ助かった」との声が寄せられたという。

思わぬ効果も得られた。普段は教室で手を上げない学生が、チャット機能で「今の所、分かりません」と気軽に質問するようになった。レポートが手書きからキーボード入力、メール送信になったことで、パソコンを使う頻度が増した。山川さんは以前、卒業生から「患者データの入力がなかなか終わらず、病院を出るのが夜中になる」と聞いたことがある。「多くの病院が電子カルテを導入している現状では、学校が基礎教育としているITスキル、リテラシーの向上が必須」と考えていたが、それを高める機会になった。

教員の授業手法や意識も変化した。私自身、学生の記憶に残るよう板書を徹底していたが、オンラインで資料をもらって終わり、とらないよう、反復して学習できる資料作りを念入りにするようになった」（山川さん）。学園としても2017年から、オンライン教育のシステムや授業設計、評価の在り方について研究してきたといい「対面とオンラインのエッセンス、ノウハウを融合したハイブリッド教育は、新しい学びの形になっていく」（同学園広報）と位置付けている。

デメリットはある。密になる恐れが少ない実習や通学定期券などの手続きをする場合を除き登校を禁止していたため、学生は友人を作る機会が減り、教員とのコミュニケーションも取りにくくなった。アンケートに「友達ができない」「一人で画面を見ながらの授業なので寂しい」と書いてきた学生には、スクールカウンセラーとの面談を進めるなど、精神面でフォローが欠けなかった。

緊急事態宣言解除後の対面授業の再開に当たり、1学年80人を40人ずつ2クラスから20人ずつ4クラスに分け、登校は原則として週2日とした。訪問看護や終末医療のグループワークでは、学生に計画を立てさせ、教員が患者役になって実演する様子をビデオに撮ってオンライン授業とするなど、工夫を重ねた。例年なら1年生の9月ごろからやっている演習は、後ろ倒しさせるを得なかった。

さらに困難だったのは、県内の約40病院に依頼して行っている3年生の臨床実習だった。多くの患者を抱え手が回らない、学生がウイルスを持ち込んで困る。学校側も学生に毎朝の検温と報告を義務付け、感染リスクが増す飲食店でのアルバイトを禁止するなどの措置は取っていたが、7月まで臨床実習はできなかった。その後、受け入れてくれた病院からは、学生が2週間以内に訪れた場所の提出や、数千円かかる抗体検査の費用負担を求められたという。

臨床実習は「看護の理論と実践を結びつけて理解する能力を養う場として重要」（厚生労働省）との位置付けだ。同省が6月に出した「臨床実習が困難な場合は、学内でシミュレーション機器を使った演習や学生同士の演技演習を実施するなどして、目標が達成されるように」とする通知を受け、各学校は受け入れ制限や時間短縮に悩みながら、何とか実習時間を確保している。

就職に影響も

学生の就職活動にも影響を与えた。病院の採用状況はさまざまだが、インターシップや説明会が減って、オンライン面接や個別対応が増加。大手の公的病院は例年より早く5月に募集を締め切った。「病院や臨床のイメージがつかめないうまま、就職先を決めることにならないか」と山川さんは心配する。

また「県内の大病院に久しぶりに実習に行ったら、多くの職員が入れ替わっていた」と明かし、新型コロナの長期化が看護職の疲弊や不足に拍車をかけることを懸念する。厚生労働省の推計によると、団塊の世代が全員75歳以上になる2025年には、神奈川県では看護職が約3万2000人不足し、充足率は72.6%と全国でも最も深刻になるとの見通しだ。

おすすめ | 新着 | 古い順 | そう思う順

ass***** | 22時閲覧

学生時代、看護師怖い、履れない、記録が大変、患者さんとのコミュニケーションが上手く取れない...
と、悩みまくった実習がないのは羨ましいと思いつつもそうした経験がなく看護師になるのも不安だなぁとも思う。また、就職される側としても例年よりむしろに手がかるだるなぁと言うのが予想される。けど、入職してくれてありがとう！頑張って貰っておくれよー！と思う。国試がんばれー！
入ってからたくさん学べば良い！！

▼ 返信 0 18 4

wmq***** | 20時閲覧

病院での実習は一人の患者さんとじっくりと向き合い、その人の病気についてはもちろん、生きてきた背景や価値観などを知り、人性を育むという大事な側面があるから重要です。また、就職される側としても例年よりむしろ実習中の出来事は強く印象に残り、国家試験や看護師として働き始めた後もとても役に立つ
実習が出来ないのはとても可哀想

▼ 返信 0 18 4

run***** | 12時閲覧

通信制に通う学生です。今年度は一度も登校なし（通信でも月に2回程度は通います）、実習なしでした。
私は人と話す何気ない会話も楽しいので、正直オンラインはつまらなかった。機械音痴で操作に頭がいっぱいになり授業内容どころじゃなかった。でもコロナで皆さん同じ思いをしている。私だけじゃない！そう思っ過ぎてしまいました。
国試も受け後は結果を待つだけ...
人と関わるのは時に面倒くさいけど、やはり楽しさや学ぶ事は何にも変えられないと思います。
人との出会いに感謝することを教えられました。
学校は確かに学びの場であるけど、現場でもたくさん学ぶ事はできる！！いつでも学びの心は忘れずにいたいと思っています。

▼ 返信 0 18 1